

### 1. 今回の研修における目的やねらい

私がこの海外研修における目的と設定したものは大きく二つあります。

一つ目は、新しい世界との出会いを通して得た体験を子どもたちに伝えたいということです。教員人生が始まった年から変わらない思いですが、この道を選択した一番の理由が「子どもたちに世の中の広さ、素晴らしさを伝えたい」というものでした。本やマスメディアを中心とした、ある部分を切り取った様々な媒体からの情報ではなく、タンザニア現地で自分自身が見て・聴いて・感じた生きた世界について語りたいという強い思いがあります。体験したことのない異文化の生活を通し、そこでの人々との触れ合いを通してこそ感じられる生きた体験を子どもたちと共有し、豊かな国際感覚、視野の広がりを養っていきたいと考えました。

二つ目は、純粋な好奇心です。自分が普段生活している上では絶対に見ることができない世界、そこで生きる人の考えや価値観、異文化すべてを見て、体験し、感じたいという欲求があります。様々な体験を通して、今後の教員人生を支える自分自身の力としていきたいと考えました。

### 2. 目的やねらいがどのくらい達成されたか

上記のどちらの視点についても、自分が予想していた以上の結果を得ることができたと言えます。「百聞は一見に如かず」という言葉がありますが、この研修でその本当の意味を感じる取ることができました。アフリカ大陸、そしてタンザニアについて何となくのイメージは今まであり、また、世界地図の中で地理的な位置は知っていますが、そこで生きる人の生活様式や考え、息遣いを現地で感じることはできたのはかけがえのない経験となりました。

### 3. タンザニアから学んだこと

本当にたくさんのことを学びましたが、一番は「世界には多様な価値観があり、自分の知っている世界がすべてではない」ということです。研修序盤は日本とタンザニアという先進国と開発途上国の違いにばかり目を向け、気付かない内に比較している自分がいました。もちろん、日本の良さだけでなく、タンザニアの良さにも目を向けていましたが、この研修で『二国間を比較すること』そのものが違うのかなと考えるようになりました。世界の広さ、人々の考えそのものをそのまま当たり前のように捉えることの大切さを学びました。

### 4. 今回の研修経験をどのように教育活動に活用しようと思っているか

第一に体験を通して見たこと・感じたことの「発信者」として多くの子どもたちに伝えていきたいと考えています。情報が何もなくては知ることができません。知らなくては何も行動することができません。まずは子どもたちに地図上のある国ではなく、そこから一歩踏み込んでその現場で起こっている目の前の諸問題について知ってもらい、自分にはどんなことができるのか考え、実践できる人になってほしいと考えています。具体的には、総合の時間に通年で国際理解・多文化共生をテーマにし、地球規模での課題解決に向けた行動と世界の人々と共生する意識が少しでも養われるような授業づくりを行っていきたいと考えています。また、対子どもたち、だけでなく、校内で機

会をいただけたので、研修の場でも自分が得た経験を多くの先生方に伝えていきたいと考えています。

## 5. 今回の研修に参加してよかったことや、よりよくするための提案

参加して良かったこともたくさんありますが、一番は「思いを共有できたメンバー」です。小中高と校種の違いやそれぞれ働く場所の違いはありますが、子どもたちのために何ができるのか、どんなことをしたらより一層教育的な効果があるのかについてみなさん思いやこだわりがあって、その生の声を10日間浴び続けることができたのが一番の思い出です。

一方、今後についての提案としては、現地の学校との交流活動についてです。その中で、こちらの学校からもっていくもの（子どもたちが作ったもの等）を事前に決めておけるといいのかなと思いました。どんなものを作ってもっていくのか、その情報を共有できるのがすでに夏休みに入った後なので、全体として事前にまとめておけたら良いのではと思いました。

## 6. 海外研修での役割（各担当や日直）を振り返っての感想・提案など

会計を担当しました。昨年度の方からは「会計は大変」という話を伺っていましたが、自分はペアの会計担当にも恵まれ、楽しく取り組ませてもらいました。会計を担当すると現地の物価の相場を早く掴むことができるので、すごく有意義な経験となりました。

## 7. その他、研修全般を通じての感想・意見など

研修全般を通しては『感謝』という言葉に限ります。JICAの方々をはじめ、現地では足立さんを中心とした様々な方々のサポートをいただき本当に感謝しております。この場を借りてお礼をいいたいです。『アサンテ サーナ!』

## 8. 今後の本研修参加者へのアドバイスなど

自分が海外研修に同行するメンバーの中でどんな役割をすることが一番いいのかをしっかりと考え、行動することが大切かなと思いました。研修内容をより濃密なものにするのは、現地の様々なプログラムではなく、現地に行った人同士の関係ではないかと思います。思っていることや悩み・疑問を共有できること、自分自身を発信すること、周りとの協調性を大切にできるといいのではと思いました。

## 9. 各訪問先等の所感

日時	テーマ	所感
8月10日(月)	日本からタンザニアまでの移動中および現地到着	飛行機に乗っている時間が約17時間。エコノミー症候群にならないように適度にストレッチをした。アフリカの地に到着した時は感動!
8月10日(月)	JICA タンザニア事務所表敬 研修ブリーフィング	長瀬所長から、「自分たちはタンザニアに何を残せるか、自分たちは何をできるのか」をしっかりと考えてほしいという言葉がとても印象的で考えさせられました。
8月10日(月)	JICA 所員との懇親会	タンザニアのビール事情、冷たいビールを頼みたいときは「バリディ カビッサ」ということがとても大切であると教えていただき、その後大変有効だった。

8月10日(月)	本日のふりかえり	会計担当として18人分の支払いをし、475000シリング支払ったことで、一人当たりの食費の相場・物価について理解が進んだ。
8月11日(火)	JICA タンザニア事務所 研修ブリーフィング	防犯・安全面についての話を伺った。自分が思っていた以上に危険であることを認識。改めてタンザニアでの行動について考えさせられた。
8月11日(火)	本日のふりかえり	シャワーの温度調整ができず、常に冷たい水だった。また、石灰を含む水らしく、髪を洗っても泡がたち辛く、こんな日常生活の場面でも日本との違いを感じた。
8月12日(水)	キリマンジャロへ移動	飛行機が今までよりも一回り小さいプロペラ機であったので不安。機内ではイタリアに住む家族と交流したが、日本にいた時よりも自分自身が積極的にコミュニケーション取れているのを感じた。新しい自分と出会えた気分だった。
8月12日(水)	キリング中等学校 赤木隊員活動視察	とても楽しく交流ができた。「ジープ サ ヒヒ (正解!)」「カジ ンズーリ (よくできたね!)」と声をかけると嬉しそうな表情をみんな見せていた。素敵な笑顔を世界共通だと感じた。
8月12日(水)	モシへ移動	空気の違い(温度や湿度)だけでなく、同じ国でも少し距離が違うだけでこんなに雰囲気が変わるのかと思った。
8月12日(水)	隊員との懇談会	それぞれの教育機関の中で、教師が求められる力が日本とはかなり違うことを知った。国家試験があることで、カリキュラムをこなすことが第一であり、思考力を求める授業は必要とされていない現状を知った。
8月12日(水)	本日のふりかえり	自分がもし、この国で生まれ、今と同じように教師として道を歩んだらどのような感じだったのかを考えた。もっとできることがあるのではと自問した一日だった。
8月13日(木)	カラंगा小学校 植松隊員活動視察	幼稚部では、基本的なスワヒリ語の単語を学ぶ授業であったので、語彙も広がり言葉が日本語に置き換えなくても出るものが増えてきた。やはり、小学校では英語が全く通じないので、スワヒリ語を使うと距離が縮まると感じた。言葉の力を改めて認識。
8月13日(木)	警察学校 江波戸隊員活動視察	青年海外協力隊で柔道の指導をしている場面を見学。日本とこれだけ距離が離れているのに、同じルールで同じ武道をしていることに驚きを感じた。
8月13日(木)	本日のふりかえり	アフリカ大陸という自分が今まであまり知らなかった土地の中で、たくさんの日本人が思いをもっ

		て働いていることを感じ、誇らしくなった。
8月14日(木)	タンライスプロジェクト 視察	日本は水に恵まれているからこそ、今のような国になったのだと自然に力に目を向けた。逆に、たとえ自然条件が整っていなくても、人の努力や工夫で困難を乗り越えることができるということをタンライスで学んだ。
8月14日(木)	専門家との懇親会	タンライスで行っている研修を受けた農村の方々が稲作（水稲）で生計を立てられるようになると、そのお金で人を雇い、自分は何もしなくなる人がいるという話を聞き、一体どういうことなのか分からなくなってきた。
8月14日(木)	本日のふりかえり	上記のつづき。アフリカ人はアフリカなりに一生懸命やっているという言葉聞いたが、その一方で楽をする人も多いという。暇を埋めようと働き続ける日本での生活がいいのか疑問に感じてきた。
8月15日(木)	タンライスプロジェクト 農村視察	チャーミー村長に歓迎を受け、当に温かく迎え入れていただいた。井戸の水を汲んだり、ウガリを作ったりと貴重な体験ができた。
8月15日(木)	市内視察	TANZANIA代表のサッカーのユニフォームを購入した。一枚12000シリング（日本円で700円くらい）。その一方、現地の学校で使う教科書は日本と同じくらいの値段。ものの値段のアンバランスさを感じた。
8月15日(木)	本日のふりかえり	どのような歴史を経てタンザニアという国ができたのかもっと知りたくなった。いくつかの書籍では読んでいたが、やはりもっと国の変遷を知らないと現在の文化体系や生活様式も理解できない部分もあると感じた。
8月16日(金)	ダルエスサラームへ移動	ザンジバル経由でダルエスサラームに戻ったが、飛行機がかなり揺れて疲れた。でも、空から見たザンジバル島は本当に美しく、島の全景や海の青さに目を奪われた。
8月16日(日)	専門家との懇親会	TANESCOの方々と会食をした。思っていた以上には予定通り作業が進まないこと、日本のやり方を一方的に押し付けるとよい結果を生まないことを体験談から学んだ。どんなによい方法であっても、それを実際にする現地の人々が納得してからやらないと難しいとのことだった。
8月16日(日)	本日のふりかえり	タンザニアでどうやって働くのか、自分の働き方のスタンスによって現地の仕事の進捗状況が大きく変わるといった話が心に残り、どんな場所でもお

		互いの歩み寄りが大切であることを改めて認識した。二国間のことだけでなく、自分自身の仕事のスタンスも見直そうと思った。
8月17日(月)	タンザニア電力供給公社 (TANESCO) プロジェクトサイト視察	タンザニア全土に電気を通すことで「夜の犯罪が減るかもしれない」「夜、本を読んで勉強できるようになるかもしれない」等、明るさの提供という視点でタンザニアに貢献したいという強い思いを感じた。遠く離れた地で活躍する日本人の気概に脱帽した。
8月17日(月)	市内視察・教材購入	ティンガティンガアートを見て「すごい！」の一言。これだけのものをすべて手書きで描くなんて、職人さんの技術とこだわりで感動した。
8月17日(月)	本日の振り返り	市内視察を通して、当たり前だが大使館通りと村の雰囲気は大きく違うと感じた。ただ、今までの自分とは違う感じ方としては、きれいで豪華な建物が良いというように考えなくなったことだ。アートや建物を含め、どんなものにもそのものの良さ(本質)があり、それは比べることもできず変わらないと考えるようになってきた。
8月18日(火)	ムランディジ小学校 三隅隊員活動視察	今まで覚えてきたスワヒリ語を使ってコミュニケーションを取ることができた。言葉がなくてもジェスチャーで思いを伝えることができるが、やっぱり話せたからこそ伝えられる世界があると改めて認識した。より一層、スワヒリ語、そしてタンザニアについて知りたくなった一日だった。
8月18日(火)	市内視察・教材購入	スーパーマーケットにて、衝撃的なことが…。お菓子売り場にタンザニア産のものが何一つ無い現状。第一産業は育てているが、それを生かした加工産業が発達しておらず、隣国のケニアや南アフリカ共和国に産業を吸い取られてしまっているとのこと。現地で育てたものを外国で加工してまた輸入に頼らなければならない国の姿を、スーパーマーケットの一角で垣間見た一日だった。
8月18日(火)	JICA 所員との懇親会	2度目の出会いだったが、すごく安心したのを覚えている。いろいろあってもやっぱり日本人と日本語で話すことに安心感を得ている自分がいた。
8月18日(火)	本日のふりかえり	上記の続き。自室で一日をふりかえり、自問自答。海外に研修にきて様々な刺激を得て、多くの良い経験をしたのに、結局日本語で話すことに安堵してしまうなんて…。
8月19日(水)	JICA タンザニア事務所 報告会および記者発表会	現地のTV局の取材が入る。「日本とタンザニアの教育現場における一番の違いは？」という問いに答えたが、報告会の後にまた考えさせられた。本

		質的な意味での違いなんて無かったなあ…と。
8月19日(水)	在タンザニア日本大使館 表敬訪問	大使が考えるビジョンに感銘を受けた。こんなに勉強し、国のために情熱をささげている人がいることを知り、とても刺激になった。大使の話聞きながら自分にはもっとできることがある、早く日本に帰り教壇に立って授業をしたいと思うようになった。
8月19日(水) -20日(木)	タンザニアから日本までの 移動中および日本到着	この10日間をゆっくりふりかえりながら、移動時間を過ごした。開発教育の推進という視点での海外研修であったが、一つ一つの教材で開発途上国の現状理解を深めていきたいというよりも、普段から当たり前のように世界を感じられるような感覚、物理的な距離を越え、国そのものを理解できるような支援を子どもたちにしていきたいと思った。また、漠然としたイメージではあるが、できることからやってきたいと思った。